

| | | | |
|-------------------------|--|--|----|
| 日 付 | 平成29年8月10日(木) | 天 気 | 晴れ |
| 主な日程 | 切り花(バラ)農家視察 酪農、バイオガス発電視察 循環型(有機)農業についての講義と視察 | | |
| タイムスケジュール | 研 修 内 容 | 研 修 の 写 真 | |
| 9:20 切り花(バラ) 農家視察 | ここでは、オーガニック(有機栽培)でバラ栽培をしていました。温室に入ると、従業員の方が害虫のアザミウマ対策としてニンニクと砂糖を混ぜた化学農薬でない農薬を与えていました。また、天敵農法で害虫を駆除しているので、環境に配慮していると感じました。機械化も進んでいて温度・湿度・水・光・栄養はコンピュータで管理しています。 |  | |
| 11:00 酪農家視察 | <p>ゲリットさんが経営する酪農場では、ホルスタイン種200頭、ジャージー種400頭を飼育しています。ジャージー種を始めたのは2年前で、ホルスタイン種より糞に含まれるリン酸が少なく環境に優しく、体も小さいので飼料が少なく済むからです。ウシの除角するときには痛みを感じないよう麻酔をしているそうで、動物愛護の面でも優れていると感じました。</p> <p>また、この酪農家では、ウシの糞尿やトウモロコシ、ニンジン茎などから出るメタンガスを燃やして発電しています。発電規模は1日2400kWhで、年間60,200kWh発電をします。これは1頭のウシから7軒の暖房を補うことができるそうです。しかし、この装置周辺から出る臭いはとても強く、近隣からの苦情もあるそうです。</p> |  | |
| 14:00 循環型農業 講義と視察 | この農園では、乳牛50頭、子牛45頭、オス牛1頭を飼育しています。化学肥料を使わない循環型農業とオーガニックの基準を守るため、ウシに有機栽培の飼料を与えていたり、薬を極力与えないようにしたり管理をされていました。牛乳だけではなくチーズやヨーグルトなどの製品もオーガニックでできているので、多くの人からの信頼を得ていると思いました。 |  | |
| ◇1日を終えて | <p>今日は、とくにオランダのオーガニック(有機栽培農業)について視察しました。どの農家でも機械化が進み、省力化に努めた効率的な農業を視察することができました。機械化だけではなく、循環型農業や動物愛護にも配慮されていました。</p> <p>視察した農家さんから話を聞いて、私たち人間の食の安全だけでなく自然や動物を大切にするとともに、限られた資源を有効に使うことが、これからの農業では必要なことだと思いました。</p> <p style="text-align: right;">(担当 守屋)</p> | | |
| | |  | |